



## ハイ アベイラビリティ コマンド

---

- `clear secure-stackwise-virtual interface` (2 ページ)
- `debug secure-stackwise-virtual` (3 ページ)
- `hw-module beacon` (4 ページ)
- `main-cpu` (5 ページ)
- `mode sso` (6 ページ)
- `policy config-sync prc reload` (7 ページ)
- `redundancy` (8 ページ)
- `reload` (9 ページ)
- `secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits` (11 ページ)
- `secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key` (12 ページ)
- `show redundancy` (13 ページ)
- `show redundancy config-sync` (17 ページ)
- `show secure-stackwise-virtual` (20 ページ)
- `standby console enable` (22 ページ)

## clear secure-stackwise-virtual interface

インターフェイス統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clear secure-stackwise-virtual interface** コマンドを使用します。

**clear secure-stackwise-virtual interface** *interface-id*

コマンドモード	特権 EXEC (#)
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

例：

次に、Secure StackWise Virtual 40 ギガビットイーサネットインターフェイスをクリアする例を示します。

```
Device# clear secure-stackwise-virtual interface fortyGigabitEthernet 1/0/10
```

## debug secure-stackwise-virtual

Secure StackWise Virtual のデバッグを有効にするには、特権 EXEC モードで **debugsecure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

デバッグを無効にするには、**undebug secure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

```
debug secure-stackwise-virtual
undebug secure-stackwise-virtual
```

---

コマンドデフォルト デバッグはディセーブルです。

---

コマンドモード 特権 EXEC

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

---

例：

次に、**debugsecure-stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```
Device# debug secure-stackwise-virtual
Secure-SVL debugging is on
Switch#
```

次に、**undebugsecure-stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```
Device# undebug secure-stackwise-virtual
Secure-SVL debugging is off
Switch#
```

## hw-module beacon

Field Replaceable Unit (FRU) のブルービーコン LED を制御するには、特権 EXEC モードで **hw-module beacon** コマンドを使用します。

**hw-module beacon** { **RP**{ **active**|**standby**} | **fan-tray**| **power-supply** *power-supply slot number* | **slot** *slot number* } { **off**|**on**|**status** }

構文の説明	<b>RP</b>	選択したスイッチのルートプロセッサを選択します。
	<b>fan-tray</b>	選択したスイッチのファンを選択します。
	<b>power-supply</b> <i>power-supply slot number</i>	電源のスロット番号を指定します。有効な値は 1 ～ 4 です。
	<b>slot</b> <i>slot-number</i>	スロット番号を指定します。有効な値は 1 ～ 4 です。
	<b>off</b>	選択したスイッチのルートプロセッサとスロットのビーコン LED をオフにし、ファンと電源をオフにします。
	<b>on</b>	選択したスイッチのルートプロセッサとスロットのビーコン LED をオンにし、ファンと電源をオフにします。
	<b>status</b>	選択したスイッチのルートプロセッサ、ファントレイ、電源スロット、およびスロットのビーコン LED ステータスを表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

## main-cpu

冗長メイン コンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールをイネーブルにするには、冗長コンフィギュレーション モードで **main-cpu** コマンドを使用します。

### main-cpu

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

冗長メイン コンフィギュレーションサブモードから、**standby console enable** コマンドを使用してスタンバイ スーパーバイザ モジュールをイネーブルにします。

次に、冗長メイン コンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device#
```

## mode sso

冗長モードをステートフルスイッチオーバー（SSO）に設定するには、冗長コンフィギュレーションモードで **mode sso** コマンドを使用します。

### mode sso

**構文の説明** このコマンドには引数またはキーワードはありません。

**コマンド デフォルト** なし

**コマンド モード** 冗長コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **mode sso** コマンドは、冗長コンフィギュレーションモードでのみ入力できます。

システムを SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- SSO モードをサポートするために、スーパーバイザモジュールでは同一の Cisco IOS イメージを使用する必要があります。Cisco IOS リリース間の相違のために、冗長機能が動作しない場合があります。
- モジュールの活性挿抜（OIR）を実行する場合、モジュールの状態が移行状態（Ready 以外の状態）である場合にだけ、ステートフルスイッチオーバーの間にスイッチはリセットし、ポートステートは再起動します。
- 転送情報ベース（FIB）テーブルはスイッチオーバー時に消去されます。ルーテッドトラフィックは、ルートテーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

次の例では、冗長モードを SSO に設定する方法を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# mode sso
Device(config-red)#
```

## policy config-sync prc reload

Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期中に発生した場合にスタンバイ スーパーバイザ モジュールをリロードするには、冗長コンフィギュレーションモードで **policy config-sync reload** コマンドを使用します。Parser Return Code (PRC) の障害が発生した場合にスタンバイ スーパーバイザ モジュールがリロードしないように指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy config-sync {bulk|lbl} prc reload**  
**no policy config-sync {bulk|lbl} prc reload**

### 構文の説明

**bulk** バルク コンフィギュレーション モードを指定します。

**lbl** 1行ごと (lbl) のコンフィギュレーションモードを指定します。

### コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトではイネーブルです。

### コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

次に、Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期化中に発生した場合に、スタンバイ スーパーバイザ モジュールがリロードされないように指定する例を示します。

```
Device(config-red)# no policy config-sync bulk prc reload
```

# redundancy

冗長コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **redundancy** コマンドを使用します。

## redundancy

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

冗長コンフィギュレーションモードは、スタンバイ スーパーバイザ モジュールをイネーブルにするために使用されるメイン CPU サブモードを開始するために使用されます。

メイン CPU サブモードを開始するには、冗長コンフィギュレーションモードで **main-cpu** コマンドを使用します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュールを有効にするには、メイン CPU サブモードから **standby console enable** コマンドを使用します。

冗長コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

次に、冗長コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)#
```

次の例では、メイン CPU サブモードを開始する方法を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)# main-cpu
デバイス(config-r-mc)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show redundancy</b>	冗長ファシリティ情報を表示します。



# reload

システム全体をリロードし、設定変更を適用するには、特権 EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

**reload** [**/noverify** | **/verify** ] [**at** | **cancel** | **in** | **pause** | **reason** *reason* ]

構文の説明	
<b>/noverify</b>	(任意) リロードの前にファイルシグニチャを確認しないように指定します。
<b>/verify</b>	(任意) リロードの前にファイルシグニチャを確認します。
<b>at</b>	(任意) リロードを実行する時間を <b>hh:mm</b> 形式で指定します。
<b>cancel</b>	(任意) 保留中のリロードをキャンセルします。
<b>in</b>	(任意) リロードを実行する間隔を指定します。
<b>pause</b>	(任意) リロードを一時停止します。
<b>reason</b> <i>reason</i>	(任意) システムをリロードする理由を指定します。

**コマンドデフォルト** システム全体をただちにリロードし、設定の変更を有効にします。

**コマンドモード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

## 例

次の例は、StackWise Virtual 構成の Catalyst 9600 シリーズ スイッチでのアクティブシステムのリロードを示しています。

```
Device# reload
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: yes
Reload command is being issued on Active unit, this will reload the whole stack
Proceed with reload? [confirm] yes

*Jan 17 08:49:38.035: %SYS-5-RELOAD: Reload requested by console. Reload Reason: Reload
Command.
Jan 17 08:49:50.023: %PMAN-5-EXITACTION: B0/0: pvp: Process manager is exiting: process
exit with reload fru code
Jan 17 08:50:18.805: %PMAN-5-EXITACTION: R0/0: pvp: Process manager is exiting: process
exit with reload chassis code

Initializing Hardware...
Initializing Hardware.....
```

```
System Bootstrap, Version 17.7.1r[FC3], RELEASE SOFTWARE (P)  
Compiled Thu Oct 28 00:16:50 2021 by rel
```

```
Current ROMMON image : Primary Rommon Image
```

## secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits

Secure StackWise Virtual 認証キーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits** コマンドを使用します。

すべてのノードの認証キーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits**  
**nosecure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits**

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

StackWise Virtual 認証キーは、スタックに参加する前に、すべてのスタックメンバで個別に設定する必要があります。

スタックのすべてのメンバに同じ認証キーを設定する必要があります。

**nosecure-stackwise-virtualauthorization-key** コマンドでは、認証キーはゼロ化されずに削除されます。スタックのすべてのメンバから認証キーを削除する必要があります。

例：

次に、**secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits** コマンドの出力例を示します。

```
Device(config)#secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits
Device(config)#$ual authorization-key FACEFACEFACEFACEFACEFACEFACEFACE
SECURE SVL key successfully set.
The stacking will run in SECURE SVL
mode after the reload. Make sure you set the
same secure-svl key on all the members of the stack.
nyq_SVL(config)#
```

## secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

デバイスから Secure StackWise Virtual SHA-1 キーをゼロ化するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key** コマンドを使用します。

### secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。				

### 使用上のガイドライン



- (注) このコマンドは、デバイスから IOS イメージとコンフィギュレーション ファイルを削除することによって、デバイスから Secure StackWise Virtual SHA-1 キーをゼロ化します。

例 :

次に、**secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key** コマンドの出力例を示します。

```
Device(config)#secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

**Critical Warning** - This command is irreversible and will zeroize the Secure-SVL-VPK
by Deleting the IOS image and config files, please use extreme caution and confirm with
Yes on each of three
iterations to complete. The system will reboot after the command executes successfully
Proceed ?? (yes/[no]): yes
Proceed ?? (yes/[no]): yes
Proceed with zeroization ?? (yes/[no]): yes

% Proceeding to zeroize image. "Reload" session to remove the loaded image.
*Dec 14 11:04:43.004: %SYS-7-NV_BLOCK_INIT: Initialized the geometry of nvram
Removing packages.conf
The configuration is reset and the system will now reboot
```

## show redundancy

冗長ファシリティ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show redundancy** コマンドを使用します。

```
show redundancy [{clients|config-sync|counters|history [{reload|reverse}]] {clients|counters}
|states|switchover history [domain default]}
```

構文の説明	
<b>clients</b>	(任意) 冗長ファシリティクライアントに関する情報を表示します。
<b>config-sync</b>	(任意) コンフィギュレーション同期の失敗または無視された Mismatched Command List (MCL) を表示します。
<b>counters</b>	(任意) 冗長ファシリティカウンタに関する情報を表示します。
<b>history</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスのログおよび関連情報を表示します。
<b>history reload</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のリロード情報を表示します。
<b>history reverse</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスおよび関連情報のログを逆順で表示します。
<b>clients</b>	指定セカンダリスイッチのすべての冗長ファシリティクライアントを表示します。
<b>counters</b>	指定スタンバイスイッチのすべてのカウンタが表示されます。
<b>states</b>	(任意) 冗長ファシリティの状態 (ディセーブル、初期化、スタンバイ、アクティブなど) に関する情報を表示します。
<b>switchover history</b>	(任意) 冗長ファシリティのスイッチオーバー履歴に関する情報を表示します。
<b>domain default</b>	(任意) スイッチオーバー履歴を表示するドメインとしてデフォルトドメインを表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

次の例では、冗長ファシリティに関する情報を表示する方法を示します。

```

Device# show redundancy

Redundant System Information :
-----
    Available system uptime = 6 days, 5 hours, 28 minutes
    Switchovers system experienced = 0
        Standby failures = 0
    Last switchover reason = none

        Hardware Mode = Duplex
    Configured Redundancy Mode = sso
    Operating Redundancy Mode = sso
        Maintenance Mode = Disabled
        Communications = Up

Current Processor Information :
-----
    Active Location = slot 5
    Current Software state = ACTIVE
    Uptime in current state = 6 days, 5 hours, 28 minutes
        Image Version = Cisco IOS Software, Catalyst L3 Switch Software
(CAT9K_IOSXE), Experimental Version 16.x.x [S2C-build-v16x_throttle-4064-/
nobackup/mcpre/BLD-BLD_V16x_THROTTLE_LATEST 102]
    Copyright (c) 1986-201x by Cisco Systems, Inc.
    Compiled Mon 07-Oct-xx 03:57 by mcpre
        BOOT = bootflash:packages.conf;
    Configuration register = 0x102

Peer Processor Information :
-----
    Standby Location = slot 6
    Current Software state = STANDBY HOT
    Uptime in current state = 6 days, 5 hours, 25 minutes
        Image Version = Cisco IOS Software, Catalyst L3 Switch Software
(CAT9K_IOSXE), Experimental Version 16.x.x [S2C-build-v16x_throttle-4064-/
nobackup/mcpre/BLD-BLD_V16x_THROTTLE_LATEST_20191007_000645 102]
    Copyright (c) 1986-201x by Cisco Systems, Inc.
    Compiled Mon 07-Oct-xx 03:57 by mcpre
        BOOT = bootflash:packages.conf;
        CONFIG_FILE =
    Configuration register = 0x102
Device#

```

次の例では、冗長ファシリティクライアント情報を表示する方法を示します。

```

Device# show redundancy clients

Group ID = 1
clientID = 29      clientSeq = 60      Redundancy Mode RF
clientID = 139     clientSeq = 62      IfIndex
clientID = 25      clientSeq = 71      CHKPT RF
clientID = 10001   clientSeq = 85      QEMU Platform RF
clientID = 77      clientSeq = 87      Event Manager
clientID = 1340    clientSeq = 104     RP Platform RF
clientID = 1501    clientSeq = 105     CWAN HA
clientID = 78      clientSeq = 109     TSPTUN HA
clientID = 305     clientSeq = 110     Multicast ISSU Consolidation RF
clientID = 304     clientSeq = 111     IP multicast RF Client
clientID = 22      clientSeq = 112     Network RF Client
clientID = 88      clientSeq = 113     HSRP
clientID = 114     clientSeq = 114     GLBP
clientID = 225     clientSeq = 115     VRRP
clientID = 4700    clientSeq = 118     COND_DEBUG RF

```

```

clientID = 1341      clientSeq = 119      IOSXE DPIDX
clientID = 1505      clientSeq = 120      IOSXE SPA TSM
clientID = 75        clientSeq = 130      Tableid HA
clientID = 501       clientSeq = 137      LAN-Switch VTP VLAN

```

<output truncated>

出力には、次の情報が表示されます。

- **clientID** には、クライアントの ID 番号が表示されます。
- **clientSeq** には、クライアントの通知シーケンス番号が表示されます。
- 現在の冗長ファシリティの状態。

次の例では、冗長ファシリティカウンタ情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy counters**

```

Redundancy Facility OMs
  comm link up = 0
  comm link down = 0

  invalid client tx = 0
  null tx by client = 0
  tx failures = 0
  tx msg length invalid = 0

  client not rxing msgs = 0
  rx peer msg routing errors = 0
  null peer msg rx = 0
  errored peer msg rx = 0

  buffers tx = 135884
  tx buffers unavailable = 0
  buffers rx = 135109
  buffer release errors = 0

  duplicate client registers = 0
  failed to register client = 0
  Invalid client syncs = 0

```

Device#

次の例では、冗長ファシリティ履歴情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy history**

```

00:00:04 client added: Redundancy Mode RF(29) seq=60
00:00:04 client added: IfIndex(139) seq=62
00:00:04 client added: CHKPT RF(25) seq=71
00:00:04 client added: QEMU Platform RF(10001) seq=85
00:00:04 client added: Event Manager(77) seq=87
00:00:04 client added: RP Platform RF(1340) seq=104
00:00:04 client added: CWAN HA(1501) seq=105
00:00:04 client added: Network RF Client(22) seq=112
00:00:04 client added: IOSXE SPA TSM(1505) seq=120
00:00:04 client added: LAN-Switch VTP VLAN(501) seq=137
00:00:04 client added: XDR RRP RF Client(71) seq=139
00:00:04 client added: CEF RRP RF Client(24) seq=140
00:00:04 client added: MFIB RRP RF Client(306) seq=150
00:00:04 client added: RFS RF(520) seq=163
00:00:04 client added: klib(33014) seq=167

```

```

00:00:04 client added: Config Sync RF client(5) seq=168
00:00:04 client added: NGWC FEC Rf client(10007) seq=173
00:00:04 client added: LAN-Switch Port Manager(502) seq=190
00:00:04 client added: Access Tunnel(530) seq=192
00:00:04 client added: Mac address Table Manager(519) seq=193
00:00:04 client added: DHCP(100) seq=238
00:00:04 client added: DHCPD(101) seq=239
00:00:04 client added: SNMP RF Client(34) seq=251
00:00:04 client added: CWAN APS HA RF Client(1502) seq=252
00:00:04 client added: History RF Client(35) seq=261

```

<output truncated>

次の例では、冗長ファシリティの状態に関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy states
```

```

    my state = 13 -ACTIVE
    peer state = 8  -STANDBY HOT
        Mode = Duplex
        Unit = Primary
        Unit ID = 5

```

```

Redundancy Mode (Operational) = sso
Redundancy Mode (Configured)  = sso
Redundancy State                = sso
    Maintenance Mode = Disabled
    Manual Swact = enabled
    Communications = Up

```

```

    client count = 115
    client_notification_TMR = 30000 milliseconds
        RF debug mask = 0x0

```

```
Device#
```



## show redundancy config-sync

コンフィギュレーション同期障害情報または無視された Mismatched Command List (MCL) (存在する場合) を表示するには、EXEC モードで **show redundancy config-sync** コマンドを使用します。

**show redundancy config-sync {failures {bem | mcl | prc} | ignored failures mcl}**

### 構文の説明

<b>failures</b>	MCL エントリまたはベスト エフォート方式 (BEM) /パーサー リターンコード (PRC) の障害を表示します。
<b>bem</b>	BEM 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールを強制的にリブートします。
<b>mcl</b>	スイッチの実行コンフィギュレーションに存在するがスタンバイ スーパーバイザ モジュールのイメージでサポートされていないコマンドを表示し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールを強制的にリブートします。
<b>prc</b>	PRC 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールを強制的にリブートします。
<b>ignored failures mcl</b>	無視された MCL 障害を表示します。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

ユーザ EXEC  
特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

2 つのバージョンの Cisco IOS イメージが含まれている場合は、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドセットが異なる可能性があります。このような不一致コマンドのいずれかがアクティブ スーパーバイザ モジュールで実行された場合、スタンバイ スーパーバイザ モジュールでそのコマンドを認識できない可能性があります。これにより設定の不一致状態が発生します。バルク同期中にスタンバイ スーパーバイザ モジュールでコマンドの構文チェックが失敗すると、コマンドは MCL に移動し、スタンバイ スーパーバイザ モジュールはリセットされます。すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブ スーパーバイザ モジュールの実行コンフィギュレーションから、不一致コマンドをすべて削除します。

2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイ スーパーバイザ モジュールをリロードします。

または、次の手順を実行して MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイ スーパーバイザ モジュールをリロードします。システムは SSO モードに遷移します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブ スーパーバイザ モジュールとスタンバイ スーパーバイザ モジュールの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視された MCL は、**show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドを使用して確認できます。

各コマンドでは、そのコマンドを実装するアクション機能において戻りコードが設定されます。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブ スーパーバイザ モジュールは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイ スーパーバイザ モジュールはコマンドを実行し、アクティブ スーパーバイザ モジュールに PRC を返します。これら 2 つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期または 1 行ごとの (LBL) 同期中にスタンバイ スーパーバイザ モジュールで PRC エラーが生じた場合、スタンバイ スーパーバイザ モジュールはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、**show redundancy config-sync failures prc** コマンドを使用します。

ベストエフォート方式 (BEM) エラーを表示するには、**show redundancy config-sync failures bem** コマンドを使用します。

次に、BEM 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
```

次に、MCL 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
```

次に、PRC 障害を表示する例を示します。

```
Device# show redundancy config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----
```

The list is Empty

# show secure-stackwise-virtual

Secure StackWise Virtual の設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **showsecure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

**show secure stackwise-virtual** { **authorization-key** | **interface***interface-id* | **status**

構文の説明	<b>authorization-key</b> デバイスにインストールされている Secure StackWise Virtual 認証キーを表示します。				
	<b>interface</b> <i>interface-id</i> StackWise Virtual interface インターフェイスの統計情報を表示します。				
	<b>status</b> デバイスの Secure StackWise Virtual のステータスを表示します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。				

例 :

次に、**show secure-stackwise-virtual authorization key** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual authorization-key
SECURE-SVL: Stored key (16) : FACEFACEFACEFACEFACEFACEFACEFACE
```

次に、**show secure-stackwise-virtual interface** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual interface fortyGigabitEthernet 1/0/10
Secure-SVL is enabled
  Replay protect      : Strict
  Replay window      : 0
  Cipher              : GCM-AES-XPN-128
  Session Number     : 0
  Number of Rekeys   : 0

Transmit Secure-SVL Channel
  Encrypt Pkts       : 80245
  Cumulative Encrypt Pkts : 80245

Receive Secure-SVL Channel
  Valid Pkts         : 80927
  Invalid Pkts       : 0
  Delay Pkts         : 0
  Cumulative Valid Pkts : 80927

Port Statistics
  Egress untag pkts : 0
  Ingress untag pkts : 0
```

```
Ingress notag pkts : 0  
Ingress badtag pkts : 0  
Ingress noSCI pkts : 0
```

次に、**show secure-stackwise-virtual status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual status  
Switch is running in SECURE-SVL mode
```

## standby console enable

スタンバイ コンソール スーパーバイザ モジュールへのアクセスをイネーブルにするには、冗長メイン コンフィギュレーション サブモードで **standby console enable** コマンドを使用します。スタンバイ コンソール スーパーバイザ モジュールへのアクセスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**standby console enable**  
**no standby console enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

スタンバイ コンソール スーパーバイザ モジュールへのアクセスはディセーブルです。

### コマンド モード

冗長メイン コンフィギュレーション サブモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、スタンバイ コンソールに関する特定のデータを収集し、確認するために使用されます。コマンドは、主にシスコのテクニカルサポート担当がデバイスのトラブルシューティングを行うのに役立ちます。

次に、冗長メインコンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイ コンソール スーパーバイザ モジュールへのアクセスをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)#
```